2013年度 経営者「環境力」大賞を終えて

庄司　元（しょうじ　はじめ／経営者「環境力」大賞事務局）

第6回「経営者『環境力』大賞」の顕彰式も無事終え、今回もこれまでと同様、環境文明21が提唱する「環境力」溢れる経営者の方々を広く世間にご紹介することができたと思っています。これもひとえに、本会会員並びにご関係者皆さまのご協力の賜です。事務局一同心からお礼申し上げます。

今回でこの「経営者『環境力』大賞」受賞者は36名になりました。この36名の方々の自己評価の状況を、年度別、評価項目別に一覧表に整理してみました。この表からは様々なことが分析できると思いますが、その詳細の解析は別の機会に譲るとして、12の自己評価項目でどの項目の評価点が高かったのか、言い換えれば、どの項目にこの36名の経営者の方々は自信を持っていらっしゃるのかを見てみます。ベスト3は、最高が「No.4他社との協働による課題解決力」で4.74、第2位が「No.1情報の公開と公平な競争を図る意志」と「No.7経済と環境の一体化を図る意志」で共に4.66です。この三つの項目は、一般的には経営あるいは経営者の評価項目には上げられない、環境力大賞ならではの評価項目です。これを更に上位5番目まで広げると第3位が「No.12 NPO等全ステークホルダーとのコミュニケーション力」で4.64、第4位は「No.3時代潮流を洞察・先取する力」4.53、第5位は「No.6地域社会との交流・伝統・文化の尊重」と「No.11人知の及ばない大いなるものへの畏敬」で共に4.50となっています。

こうして見ると、第4位になった「No.3時代潮流を洞察・先取する力」（これは通常の経営者の評価項目にも入ると思います）を除いては、経営者に求められる資質には通常入れられていない項目の自己評価点が高くなっているのが解ります。こうして見ると、この36名の方々はまさに環境文明21が求める経営者の資質を十分に理解し、それを具体的に経営に活かしている方々ということができます。

2013年度を含めてこれまで6回の「経営者『環境力』大賞」の顕彰者を発表してまいりましたが、それだけでは、環境文明21がこの顕彰制度を創設した意味を果せていないと思っています。私たちは、こうした環境力を発揮して会社経営で優れた業績を上げている経営者がいらっしゃること、環境と経済を一体化する中でも経営を立派に成り立たせている経営者がいらっしゃることを示し、一人でも多くの環境力に富んだ企業経営が増えていくことを願っているのです。そのことで環境文明21が唱える環境文明社会の構築に寄与したいと考えているのです。

そのためにこれからは、36名の方々のご協力をいただいて、環境力に溢れた企業経営に関しての情報発信を強めていかねばならない、そのための情報発信の場をつくっていかねばならないと考えています。その情報発信の場として、この「経営者『環境力』大賞」受賞者のネットワークをつくり、環境力に溢れた経営情報を広く、かつ濃密に発信していけたらと考えています。

「経営者『環境力』大賞」受賞者の自己評価点の状況

		2008（第1回）	2009（第2回）	2010（第3回）	2011（第4回）	2012（第5回）	2013（第6回）	6回平均
1	情報の公開・公平な競争	4.14	5	4.4	5	4.71	4.71	4.66
2	100年先の企業価値の設定	4.14	4.5	4.4	4.8	4.71	4.29	4.47
3	時代潮流を洞察・先取する力	4.14	4.67	4.4	4.8	4.57	4.57	4.53
4	他社との協働による課題解決力	4.57	4.83	4.4	4.8	5	4.86	4.74
5	自社で働く意欲を高める力	4.43	4.67	3.6	4.8	4.29	4.57	4.39
6	地域社会との交流・伝統・文化の尊重	4.43	4.5	4.2	4.6	4.86	4.43	4.50
7	経済・環境の一体化への意志	4.43	4.83	4.6	4.8	4.86	4.43	4.66
8	事業を大きくし過ぎない勇気	4	5	3.8	4.6	4.14	4.00	4.26
9	科学を理解、経営に活かす力	4	4.67	4	4.4	4.43	3.86	4.23
10	技術動向を経営に繋げる力	3.86	4.67	4.6	4.4	4.57	4.14	4.37
11	人知の及ばない大いなるものへの畏敬	4.71	5	3.8	4.6	4.43	4.43	4.50
12	NPO等全ｽﾃｰｸﾎﾙﾀﾞｰとのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	4.57	4.83	4.2	4.8	4.71	4.71	4.64
	各年度の1項目あたりの平均点	4.29	4.36	4.2	4.7	4.61	4.46	4.44